



## 喜多埜

## 相撲と菅原家

先月の大相撲九月場所において、大関 日馬富士関が優勝され、実に五年ぶりとなる新横綱が誕生しました。

さて、この相撲ですが、そもそもの由縁は、垂仁天皇七年(紀元前二十三年)の七月七日に、出雲の野見宿禰(のみのすくね)と、大和の当麻蹴速(たいまのけはや)が、垂仁天皇さまの御前で奮力(すまい)相撲(すまひ)を執り行なつた事がはじまりといわれます。この時、勝者となつた野見宿禰の子孫が菅原家であり、天神さまと菅原道真公は相撲とも縁の深い家柄でした。そういった事もあり、平安時代以後、宮中で執り行なわれる「相撲節会(すまいのせちえ)」という相撲大会では菅原家が運営に携わり、鎌倉時代から江戸時代にかけては菅原高長(五条高長)を祖とする五条家が相撲司として相撲の運営を統括していました。

現在は日本相撲協会が運営を取り仕切っていますが、この相撲文化を古代から現代まで伝えた裏には天神様のご縁があったようです。

## 玉姫稻荷神社 鳥居修理

茶屋町の御旅社の末社として鎮座いたします玉姫稻荷神社の朱の鳥居が、建立より約二十年となり、長年の風雨で朱が剥落し、非常に傷みが目立ちはじめておりましたが、先月、とあるご崇敬者の方の篤志のご寄進により、修理を執り行う事が出来ました。ご本人さまの意思で「玉姫さまがご存じであれば十分です」という事で、匿名ご希望でのご奉賛ではございますが、敬神の御心に深く敬意を表しここに報告申し上げます。

## 茶屋町エリア合同イベント

今月六日〜八日の三連休に、茶屋町では、「梅茶祭(梅田・茶屋町・祭)」というイベントが開かれ、デニムフェスタやハロウィンパレード、ハンドメイドマーケットなど、様々な催し物が開かれる予定となっております。ぜひお誘い合わせて秋の茶屋町にお越し下さい。

## 神社豆知識「しめ縄」

漢字では注連縄、×縄、標縄、七五三縄などと書きますが、すべて「しめなわ」と読みます。読んで字の如く、俗界と神域とを締め分ける役割をもつた神祭具です。

古事記によると、天照大御神さまが天の岩戸から出られた際に、二度とお籠もりになられる事がないようにと、太玉命が岩戸をしめ縄で塞いだのが由縁とされています。

以来、うかつに触れてはならない神性を帯びた空間には、しめ縄をかける事が倣いとされ、神々のおわすところにはこのしめ縄がかけられるようになりました。

お正月に各家庭にもしめ飾りを飾るのも、新年松の内には年神さまがお家にやって来られるという信仰によるもので、小正月までの間は家庭内も神域同様という事を意味します。しかし、近年このしめ縄の原材料であるワラの確保が大変難しくなってきました。しめ縄用のワラは、手作業で刈った、出穂前のモチ米のワラが粘りがありもつとも良いとされますが、人手不足や減反などが原因で、作られる農家の方が激減されている為です。家庭用の大きさであれば問題ありませんが、神社用のものとなると量も質も良いものがないと風雨に晒される屋外では耐えられず、藁が高騰化する昨今では維持する事も難しくなっています。時代の流れといえればそれまでですが、神域を守ってきたしめ縄はいま細っていくばかりなのかもしれません。

## 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

